

令和4年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）  
分担研究報告書

就労制限を来たした慢性疼痛患者の就労支援に寄与する多角的包括的研究

研究分担者 今村 寿宏 九州労災病院 勤労者骨・関節疾患治療研究センター 役職 センター長

研究要旨

就労者脊椎疾患の中で腰椎椎間板ヘルニアによる腰痛、下肢痛は就労制限をきたすことも少なくない。近年、内視鏡下脊椎手術など低侵襲手術により早期社会復帰が可能である。その中でも椎間板内酵素注入療法は本邦で開発された経皮的に局所麻酔で施行できる方法である。しかしながら術後、職場復帰を検討した報告は少なく、我々の施設で行なった就労者腰椎椎間板ヘルニアに対し椎間板内酵素注入療法施行し、術後3ヶ月当科で経過観察可能であった12例を検討したところ、9例は奏功し従来なら全身麻酔下で行っていた内視鏡下椎間板後方摘出術(MED)を回避できた。一方、3例は治療効果に乏しく観血的治療を要した。全員、術前と同じ職種に戻ることはできた。今後は再発予防に向けて就労別に指導要綱の作成が必要と考えられた。

A. 研究目的

就労者における腰椎椎間板ヘルニアに対する椎間板内酵素治療後における経過について調査、検討すること

B. 研究方法

2019年9月から2022年1月まで保存療法抵抗性の腰椎椎間板ヘルニアに対し当院で椎間板内酵素注入療法を施行した18例のうち手術時就労かつ術後3ヶ月以上経過観察可能であった12例を対象とした。調査項目として手術時年齢、BMI、術前、術後1週、4週、最終観察時の疼痛に対しNumeric Rating Scale (NRS)、Denis Pain Scale (DPS)を評価した。また術後の復職状況を調査。

(倫理面への配慮)

倫理委員会にて承認済。本研究はヘルシンキ宣言の精神を遵守し、個人情報の保護やインフォームドコンセントなどに関する倫理的問題に十分配慮した。収集した個人情報は電子媒体へ保存し、研究実施者が所属する九州労災病院勤労者骨・関節疾患治療研究センター内の施錠された机に保管し、漏洩・盗難・紛失等が起こらないように厳重に管理をする。学会などで研究結果を公表する際には個人が特定できないように配慮している。データは全て新たにID付し、連結可能匿名化データとして扱い、データ分析に役立てるための情

報として保管する。研究終了後も論文作成やデータ確認を行う事が想定されるため、保管したデータは、研究の中止または研究終了後5年が経過した日まで保存し、その後は個人情報に十分注意して廃棄する。廃棄に際しては、コンピュータからは専用ソフトを用いてデータを完全抹消し、紙媒体はシュレッダーにて裁断し廃棄する。

C. 研究結果

手術時平均年齢は51.3(28~73)才。平均BMI: 25.1 平均NRS(腰痛/下肢痛: 術前4.7/7.9、術後1週2.3/2.7、術後4週: 3.4/3.7、最終観察時: 2.7/3.2) DPS(術前3、術後4週2.7、最終観察時1.9)であった。しかしながら3例は術後3~6ヶ月後に観血的手術を要した。術後職業状況ではMEDを要した1例が慢性腰痛のため、早期就労復帰困難であったが、それ以外は、術後1カ月以内に術前と同じ職種に就労復帰していた。デスクワークは術後1週以内に復帰していた。

D. 考察

当科では椎間板内酵素注入療法は1泊2日で施行している。現在のところ、生涯1回しか施行できないが、MEDに比べ、硬膜損傷や神経根損傷リスクも極めて少なく、局所麻酔で行うことより入院期間も短く、早期復職

が可能となり就労者にとっても適切な治療のひとつと考えられた。重量物を挙上するような患者の場合は術後、早期に職場復帰しても術前の就労状況に完全復帰までは時間を要したが、術前と同じ職種に戻ることはできた。再発予防に向けて就労別に指導要綱の作成が必要と考えられた。例えば、ボディメカニクス：デスクワーカーとフィジカルワーカー向けに分ける、第一次産業（主に農業）、第二次産業（製造業）、第三次産業（介護、小売り、IT系等）で指導書を分けたほうがよいか更なる検討が必要と考えられた。腰椎椎間板ヘルニアの局在についてもおおまかな予後・経過を、労働損失という観点で、産業保健スタッフのみならず労働者とともに、理解しておくほうが望ましいので、今後、マニュアルにも追加予定が必要と考えられた。

#### E. 結論

腰椎椎間板ヘルニアにおける椎間板酵素注入療法は早期に就労復帰に繋がる治療法のひとつであると考えられた。

#### F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

今村 寿宏:脊椎疾患による痛みの病態と治療 腰椎疾患を中心に  
Pain Rehabilitation (2186-2702)12 巻 1 号 Page14-21(2022. 03)

##### 2. 学会発表

###### 1. 今村 寿宏, 和田 伸

就労者における椎間板内酵素注入療法後の経過ならびに職場復帰状況 Journal of Musculoskeletal Pain Research (2186-2796)14 巻 4 号 Page S81(2022. 10)

2. 今村 寿宏 脊椎慢性疼痛患者におけるジクロフェナク Na 経皮吸収型製剤の効果 Journal of Musculoskeletal Pain Research (2186-2796)14 巻 4 号 Page S77(2022. 10)

3. 今村 寿宏, 加治 浩三, 上田 修平, 上

森 知彦, 樽角 清志, 吉本 昌人, 鬼塚 俊宏, 河野 勤, 松延 知哉, 三浦 裕正 就労者における椎間板内酵素注入療法

日本職業・災害医学会会誌 (1345-2592) 70 巻臨増 Page 別 137 (2022. 10)

#### H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし